

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 4月 27日

事業所名 キッズグロース

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○				
	2 職員の配置数は適切である	○				児童の年齢、人数、特性にあわせ、人員配置基準以上の人員を常に配置するようにしている。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている			○		建物の構造上、難しい点も多いが室内の設備、備品等、充実するように務める。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○				日々スタッフでミーティングを行い、月に1回の研修時には今後の業務改善に向け話し愛の場を設け、情報を共有するようにつとめている。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		○			現在は保護者へのアンケートは実施しておらず、今後検討したい。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している		○			現在はまだ公表していないが、今後は公表する。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○		現在は第三者による評価を行っていないが、今後検討する。
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○					
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○				保護者、相談支援所から頂いた資料を基にスタッフで情報を共有し、個別に対応できるように心がける。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○				
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○				スタッフ各々が活動プログラムの内容を立案し、自由に意見が言える環境を用意している。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○				児童の年齢、特性を考慮し、興味を持てる活動プログラムを提案できるよう努めている。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○				一日の流れを常に見れるように表示し、朝礼時にも児童に報告し、常に時間を意識して動けるように努めている。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○				
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○				午前中にスタッフで情報を共有し、前日にあったことを休んでいたスタッフにも報告できるようにし、全員で共通認識をもって取り組むようにしている。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○				
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○				業務日誌、送迎業務日誌、実績記録等、毎日担当が記入するようにしている。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○				
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○				

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			日々、直接支援してるスタッフが管理者とともに担当者会議に参加するようにしている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○				
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			○		現在、医療的ケアが必要な児童は受け入れていないが、今後需要に応じて対応していく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている			○		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している			○		現在、該当児童は通所していないが、今後対応が必要な児童が通所したときはしっかりと対応していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている			○		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			○		現在、他施設との児童交流が行えていないため、今年度ではもっと地域事業や他施設との交流の場を設けるよう努める。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○				地域の児童部会への参加は可能な限り参加するように努めている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○				
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている			○			
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				契約時にも保護者の方にわかりやすく例を提示しながら説明し、わからなければいつでも相談できるよう努めている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○				
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			○		現状、保護者会等開催できていないが、今後は保護者の方にも理解を求め、交流の場を設けるよう努める。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○				保護者、児童から注意すべき点を指摘いただいた際にはすぐに管理者に報告し、スタッフで情報を共有し、対処、報告するように心がけている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○				
	35	個人情報に十分注意している	○				個人情報のデータは鍵付きの書庫に保管している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			○		コロナ禍の状況で交流することは難しいが今後は地域の行事にも参加し交流を図るよう努力を努める。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○				
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○				
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○				
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○				現在、身体拘束を使用する児童はおりません。今後、緊急を要し生命や身体の保護のために、必要と考えられた場合はスタッフ・保護者に書面にて報告し計画書にも記載します。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○				食物アレルギーの児童には必ずおやつや調理実習で作る食事を保護者に連絡し、確認するようにしている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○				ヒヤリとしたことがあった場合は、必ず報告書を作成し、スタッフ全員で共有するようにしている。